

教育大綱 基本方針－1

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら  
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

I. 学校教育目標

「心豊かなたくましい昼生っ子の育成」  
～ともに学び、楽しさを実感できる教育の推進～

II. 昼生小学校研究主題

「ともに高め合う子どもの育成」  
～ 異学年での交流活動を通して ～



## 研究主題設定の理由

### ① 児童の実態

縦割り班活動などを通して他学年との交流も多く、児童会などを中心に学校をより良くする活動を考えたり、それを守ろうとしたりする規範意識の高い児童が多い。学級の友だちと仲良く遊んだり、協力して活動したりすることができたり、話すことが苦手な子の思いを聞き取ろうと耳を傾けたり、友だちが自力でできるようになるまで待ったりという優しい様子が見られる。縦割り班活動や通学班での登下校、地区児童会での活動では、高学年の児童が低学年の児童を世話する姿も見られ、人を思いやる気持ちが育ってきている。

授業においては、ペアやグループ活動は容易に自分の意見を伝えやすいために話し合いが活性化しているが、全体の場合では、筋道立てて意見を述べなければならないという意識があったり、友だちの前に立つだけで緊張して話せなくなったりするなど、自分の考えを発表することに苦手意識をもっている児童が多い。また、自分の考えを発表する場面では、少人数学級であるにも関わらず、発言する児童が偏ったり、全体交流の場に参加しにくかったりする児童がいたりして、多様な意見に傾聴し、正答を導き出すための過程を全員で試行錯誤しきれないなど、十分な練り上げができていない姿が見られる。更に、教師に促されることで、課題や活動、自主学習や家庭学習へ真面目に取り組むことはできるが、興味のあることや自分の課題を持ち、主体的に取り組む子どもが少ない。

### これまでの取り組み、成果と課題

昨年度までは、算数科を研究領域として、児童の話し合い活動の活性化を柱とした研究を進めてきた。特に、指導者が事前に子どもの発言を予想し、授業での指導者の出場を考えておくことで、子どもの話し合い活動が活発に行われるようになると仮定し、研究をしてきた。研究を進めていくにつれ、話し合い活動を活性化するには、子どもが学習に興味を示すことが重要であると再認識させられた。指導者が子どもの興味を引き出すためには、算数科の学習と生活的概念の融合が必要と結論づけ、生活の中で活用できる場を設定し、学習展開をしてきた。すると、子どもは生活の中で算数を活かす方法を考え出し、積極的に多くの意見を述べる姿が見られるようになった。しかし、子どもと指導者との対話が多く見られ、子どもどうしの話し合い活動は活性化したとは言い切れなかった。

### 研究主題について

本校では、今年度より2、3年生の複式学級が設置された。複式学級をはじめ、低・中・高学年での合同授業による異学年集団の学習を行うことで、本校のような小規模校では、少しでも多くの子どもたちの交流を可能にし、多様な考え方に触れる貴重な機会となる。また、異学年交流では、一つ上の学年の子どもが授業をリードしていくことを可能にするなど、リーダー性を育む機会ともなる。よって、本校において、異学年集団による学習活動は、子どもどうしの話し合い活動において学びをより深めるために重要となることが考えられる。そこで、昨年度の課題として挙げられた「子どもと指導者との対話となっていた」ことを踏まえ、今年度は、同学年及び異学年での交流活動を通して、子どもどうしが主体的に対話できる場を設定した授業を展開していく。昨年度までの成果を生かし、学習と生活的概念を融合した授業を展開したり、指導者が授業で関われない時間帯に子ども(ガイド役)が話し合いを主導したりする授業を展開することで、どのように子どもどうしの考えが深まり、互いを高め合っているかを研究することとする。研究領域は、全領域として、「ともに高め合う子どもの育成」～異学年での交流活動を通して～を主題として取り組んでいく。

## Ⅲ. 研究領域 全領域





## 具体的な取り組み

### 授業づくり

#### 異学年合同授業…体育・音楽・図工・道徳(2,3年)

#### 異学年での交流を設定…生活・総合・外国語・学活・特別活動など

- ・学年に応じた, 学習内容や程度を変えた指導計画の作成
- ・学年に応じた, 技能の向上やより深い学びを進められるようにするための, 目標の設定
- ・相手を意識した分かりやすい伝え方・教え方の工夫
- ・異学年の良い手本を見ることで, 自分たちの学習活動に生かす
- ・話し合い活動通した, 知識の再定着



#### 「対話」を取り入れた授業づくり

- ・主体的に問題を解決できるような導入の工夫
- ・話し合い活動の場で, 「取り上げる・つなぐ・問い返す」適切な教師の出場の設定
- ・ホワイトボードや, タブレット端末を使用した考えの共有
- ・話し方, 聞き方スキルの向上
- ・「ガイド」を中心とした授業づくり

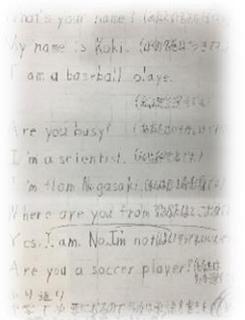
#### ☆昼生小版ガイド学習・複式「わたり」指導の作成

(※「ガイド」とは, 児童が他の児童へ指導者が事前に示した指示を出す等, 間接指導時に授業の主体となること)

### 基礎学力の向上

#### 補充学習

- ・朝の学習(英語・国語・HGT・読書), 補充学習日の設定(水曜日の5限目に実施)
- ・自主学習の紹介コーナーの設置と, 手本となるノートの紹介
- ・作文, 日記, 振り返りの指導(書き方指導・内容の交流)



#### 家庭学習

- ・「音読, 計算, 漢字」と自主学習や作文(日記), の導入
- ・タブレット端末(e ライブラリ等)を使用した家庭学習
- ・10チャレ(児童会主体の取り組み。家庭で10分間自主学習に取り組むことで学習の定着を図る)

#### 読書活動の充実

- ・学校司書及び学校図書館アドバイザーと連携した読書指導
- ・図書ボランティア及び教職員によるわくわく読み聞かせ
- ・委員会の取り組み(図書館まつり, 10分間読書ウィーク, おすすめの本紹介)



#### 生活習慣の確立

- ・家庭と連携した「健康マスター!」の実施(メディアの視聴時間縮減・早寝早起き朝ごはん等, 生活習慣を見つめなおす取組)
- ・規則的な生活習慣を身に付けるための自主・自律性の伸長(「健康マスター!」の振り返りを生かす)

### 仲間づくり

#### 人権教育の推進

- ・QU・人権・いじめアンケート, 「先生と話そう会」の実施
- ・学級づくりに活かすための子ども理解
- ・支援を要する児童の共通理解

#### 認め合う学級づくり

- ・安心して過ごせる仲間づくり
- ・話したい, ききたいと思う場づくり



#### 縦割り班活動の充実

- ・全校集会, 全校行事(全校遠足・1年生を迎える会・昼生地区ふれあい大運動会・人権集会等)